

唱歌「久田船長」

石川県師範学校教諭 榎沢英次郎 作詞
石川県師範学校教諭 新清次郎 作曲
(明治三十六年十二月作)

一、青森湾を後にして

黒煙高く浪を蹴て

函館さして勇ましく

東海丸は船出せり

六、

日頃の技倆あらはして

またたくひまに船客を

五艘のボートに移らせて

先ずその難を避けしめぬ

二、

頃は三十六年の

十月二十有九日

暁 近き虎の刻

天候いと物凄く

七、

露船も急ぎボートもて

浮つ沈みつ しつつある

人をば救ひ船長も

救はんものと近づきぬ

三、

潮は勢 急にして

吹雪はげしく降りしきり

黒白もわかぬ浪の上

笛を鳴らして進み行く

八、

されど船長 之を拒み

我が身体を船橋に

縛りて汽笛の綱を引き

非常信号鳴らしつつ

四、

突然前に船を見て

あなやと思ふ一刹那

これを避くるに暇もなく

衝突したるプロGRES

九、

従容自若 船体と

共に名誉の海底に

葬られたる健気さは

いと勇ましき限りなり

五、

實に百雷の落ること

轟 渡りてすさまじく

見るみる船は傾きぬ

すは事こそと船長は

十、

名誉に死せる船長は

その姓久田 名は佐助

生まれは能登の鶴川村

實に海員の 鑑なる